

西宮市立中央病院

新専門医制度内科領域プログラム

内容

西宮市立中央病院 新専門医制度内科領域プログラム.....	1
1.理念・使命・特性.....	3
2.募集専攻医数【整備基準27】	5
3.専門知識・専門技能とは.....	6
4.専門知識・専門技能の習得計画.....	7
5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】	10
6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】	10
7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】	11
8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】	11
9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】	12
10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】	13
11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】	13
12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】	14
13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】	16
14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】	19
15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】	19
16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】	19
17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】	20
18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】 ..	21
19.西宮市立中央病院 内科専門研修施設群	21
図 1. 西宮市立中央病院内科専門研修施設概要	21
表 1. 西宮市立中央病院 内科専門研修施設群の研修施設一覧	22
表 2. 各施設の内科13領域の研修の可能性.....	22
専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】	23
専門研修施設（連携施設）の選択.....	23
専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】	24
1)専門研修基幹施設.....	25
2)専門研修連携施設.....	27
西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム（専攻医研修マニュアル）	67
西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム（指導医マニュアル）	76
別表 1各年次到達目標	78
別表 2西宮市立中央病院 内科専門研修 週間スケジュール（例）	79

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

- 1) 本プログラムは、兵庫県阪神南医療圏（西宮市、尼崎市、芦屋市）の中心的な急性期病院である西宮市立中央病院を基幹施設として、阪神北医療圏など近隣医療圏、および大阪医療圏の医療機関と連携した内科専門研修プログラムです。内科専門研修を経て阪神医療圏ならびに兵庫県・大阪府をはじめとした全国の医療事情を理解し、各地域の実情に見合った実践的な医療が可能になるよう練られています。
- 2) 当院の基本理念である「市民に期待され、親しまれ、信頼される病院であるよう、一 患者さま中心の心温かな病院、二 医学の進歩に対応し質の高い総合的な診療、三 地域医療機関との連携、保健・福祉との協力のもとに市民の健康を守る、四 開かれた病院として市民・医療関係者の生涯教育の充実に努める」を念頭に、最善の医療を提供できる内科専門医を育成することを目的とします。
- 3) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準2】

- 1) 兵庫県阪神南医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち、臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

本プログラムは、近畿の大都市医療圏である兵庫県阪神南医療圏（西宮市、尼崎市、芦屋市）の中心的な急性期病院である西宮市立中央病院を基幹施設として、阪神北医療圏、大阪医療圏といったそれぞれ研修環境が異なる地域の連携施設において、地域の実情に合わせた実践的な医療を研修できます。研修期間は基幹施設2年間+連携施設1年間の3年間になります。西宮市立中央病院の入院症例数が少ない分野である血液・神経・腎臓分野においては、豊富な入院症例数を持つ兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、公立学校共済組合近畿中央病院、市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センターといった連携施設で経験を積むことができます。高度医療を提供できる大阪大学医学部附属病院が連携病院として参加しており、高度な急性期医療・より専門的な内科診療ならびに希少疾患を中心とした診療を経験できます。

- 1) 本プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て、主たる担当医として入院診療を行った後、地域への病診連携を利用した紹介までの診療を行うことが可能です。
- 2) 基幹施設である西宮市立中央病院は、兵庫県阪神南医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験をj得ることがjできます。加えて地域の病診・病病連携の中核でもあり、高次機能病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 3) 基幹施設である西宮市立中央病院での1年間（専攻医1年次）および連携施設での1年間（専攻医2年次）の合計2年間で「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち少なくとも45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。専攻医2年次修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成します。（P.78 別表1「各年次到達目標」参照）
- 4) 専攻医1年次は、基幹施設である西宮市立中央病院において内科系5診療科（消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ・膠原病内科）を基本領域研修として2ヶ月または3ヶ月ずつ行います。専攻医2年次は、連携施設において研修を行います。初年度の終わりまでに2年次の研修先を決定します。どの連携施設も豊富な入院症例数を持っているため、1年次に研修が十分でなかった領域を中心に研修をすることが可能です。また、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践し、より総合的な内科研修が可能となります。専攻医3年次は、基幹施設である西宮市立中央病

院において希望するSubspecialty領域の診療科の通年研修を行います。ただし1年次修了時に十分な基本領域の症例研修が行えそうにないと判断された場合には、希望するSubspecialty領域の診療科に所属しながら、経験が不足する領域の診療科での研修を並行して行う場合もあります。

- 5) 基幹施設である西宮市立中央病院での2年間と連携施設群での1年間の研修で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも56疾患群、160症例以上を経験し（可能であれば70疾患群、200症例）、J-OSLERに登録します。（P.78 別表1「各年次到達目標」参照）

専門研修後の成果【整備基準3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医の関わる場は多岐にわたり、それぞれの場に応じて以下のような役割を果たします。

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。

それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一ではありません。その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医が育成される体制を整えています。

西宮市立中央病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養とGeneralなマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、兵庫県阪神南医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また希望者はSubspecialty領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本プログラムが果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準27】

下記 1)～6)により、西宮市立中央病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は1学年

4名です。

1) 西宮市立中央病院内科後期研修医は、過去3年で7名の実績があります。

2) 表 診療科別診療実績 (2023年度)

	入院患者数 (人/年)	外来患者数 (人/年)
消化器内科	601	7744
循環器内科	157	2473
呼吸器内科	569	6927
糖尿病内科	186	5278
リウマチ・膠原病内科	108	2149
総合診療内科	300	1568

腎臓、血液、神経の入院症例は少なめですが、外来患者診療を含め、1学年4名に対しては十分な症例を経験可能です。

3) 内科剖検体数は2019年1体、2020年1体、2021年2体、2022年1体、2023年度0体です。

4) 「総合内科」9名、「消化器」4名、「循環器」4名、「内分泌」3名、「代謝」3名、「腎臓」0名、「呼吸器」3名、「血液」0名、「神経」0名、「アレルギー」1名、「膠原病および類縁疾患」2名、「感染症」0名、「救急」1名の13領域中、9領域の専門医が1名以上在籍しています。

5) 専攻医2年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた45疾患群、120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能です。

6) 専攻医3年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた56疾患群、160症例以上の診療経験は達成可能です。

7) 連携施設には、地域医療密着型基幹病院11施設、総合医療センター4施設、大学病院1施設、合計16施設あり、専攻医の様々な希望・将来像に対応可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準4】(「内科研修カリキュラム項目表」参照)

内科研修カリキュラムは、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、「救急」の13領域から構成されています。「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標(到達レベル)とします。

2) 専門技能【整備基準5】(「技術・技能評価手帳」参照)

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のSubspecialty専門医へのコンサルテ

ーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準8～10】（P.78 別表1「各年次到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群、200症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○ 専門研修（専攻医）1年：

- 研修方式：内科専攻医期間中に研修目標が達成できるよう、各専攻医にあわせた柔軟なプログラム編成を検討し実施します。そのために経験が必要な症例が不足している領域に関してはローテーション研修または並行研修を追加することもあります。
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、少なくとも20疾患群、60症例以上を経験し、J-OSLERにその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- 専門研修修了に必要な病歴要約を10症例以上記載してJ-OSLERに登録します。
- 外来では、専門外来での新患・紹介に加え、内科系救急患者の初療ならびに診断、治療を担当します。加えて入院時に対応した症例の退院後の経過観察も行うことも可能です。症状が安定した後は病診連携システムに則り地域への診療所への紹介を行います。
- 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を、指導医、Subspecialty上級医とともに行うことができます。
- 態度：専攻医自身の自己評価と、指導医、Subspecialty上級医およびメディカルスタッフによる360度評価を少なくとも年1回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○ 専門研修（専攻医）2年：

- 連携施設での研修となります。連携施設では、西宮市立中央病院での1年目の研修にて経験の少なかった疾患の領域の研修を中心に研修します。
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、少なくとも45疾患群、120症例以上の経験をし、J-OSLERにその研修内容を登録します。
- 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載してJ-OSLERへの登録を終了します。
- 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を、指導医、Subspecialty上級医の監督下で行うことができます。

- 態度：専攻医自身の自己評価と、指導医、Subspecialty上級医およびメディカルスタッフによる360度評価を少なくとも年1回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。
- 専門研修（専攻医）3年：
- Subspecialtyならびに内科全般の研修を行います。Subspecialtyに関連する科の研修も希望される場合は事前または並行で研修を行えるよう、柔軟にローテーションを調整します。
 - 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、200症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上（外来症例は1割まで含むことができます）を経験し、J-OSLERにその研修内容を登録します。
 - 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
 - 既に専門研修2年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け、形式的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
 - 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を、自立して行うことができます。
 - 態度：専攻医自身の自己評価と、指導医、Subspecialty上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを少なくとも年1回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約29症例の受理と、少なくとも70疾患群中の56疾患群以上で計160症例以上の経験を必要とします。J-OSLERにおける研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

本プログラムでは、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にSubspecialty領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することの

できなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくはSubspecialty上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週1回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来（初診を含む）とSubspecialty診療科外来（初診を含む）を少なくとも週1回、1年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救急外来（平日）および救急外来当直（夜間、休日）で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、Subspecialty診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準14】

(1) 内科領域の救急対応、(2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、(3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、(4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、(5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（2022年度実績2回、e-learning11回実施）
※内科専攻医は年に6回以上受講します。（2022年度は新型コロナ感染対策のため実地研修は2回と少なかったが、e-learningで代用、通常は年10回程度実施）
- ③ CPC（2021年度実績1回）
- ④ 研修施設群合同カンファレンス
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス（西宮地域医療連携セミナー、地域医師会症例検討会、地域救急医療勉強会等）（2022年度3回開催）
（2022年度は新型コロナ感染対策のため実地研修は3回と少なかったが、通常は年8回程度実施し、内科専攻医は原則すべてのカンファレンスを受講します。）
- ⑥ JMECC 受講 ※内科専攻医は必ず専門研修の3年間で1回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ 緩和ケア、認知症ケアに関する講習会

4) 自己学習【整備基準15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルをA（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）とB（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルをA（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルをA（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した））、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーのDVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にあるMCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準41】

J-OSLERを用いて、以下をwebベースで日時を含めて記録します。

- 専攻医は全70疾患群の経験と200症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低56疾患群以上160症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準13,14】

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設で把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は生涯にわたって自己研鑽していく際に不可欠となります。

本プログラムでは、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
 - ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM: evidence based medicine）。
 - ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
 - ④ 診断や治療のevidenceの構築・病態の理解につながる研究を行う。
 - ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。
- といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、
- ⑥ 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
 - ⑦ 後輩専攻医の指導を行う。
 - ⑧ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

これらを通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準12】

本プログラムでは、

- ① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）。
※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究の論文を理解できる学習を行います。

これらを通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。

8. コアコンピテンシーの研修計画【整備基準7】

本プログラムでは、指導医、Subspecialty上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である西宮市立中央病院研修委員会が把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮

- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準11,28】

本プログラムは、兵庫県阪神南医療圏の中核病院である西宮市立中央病院を基幹施設として、近隣医療圏である阪神南医療圏の医療機関（兵庫県立西宮病院）、阪神北医療圏の医療機関（市立伊丹病院、公立学校共済組合近畿中央病院）、および大阪医療圏の医療機関（市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センター、大阪大学医学部附属病院、国立病院機構近畿中央呼吸器センター）と連携した内科専門研修プログラムです。基幹施設である西宮市立中央病院は、兵庫県阪神南医療圏の中心的な急性期病院であるとともに地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディージェズの経験はもちろん超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験を得ることができます。地域の病診・病病連携の中核でもあり、高次機能病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけられるように、また、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、公立学校共済組合近畿中央病院、市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センター、大阪大学医学部附属病院、国立病院機構近畿中央呼吸器センターを連携施設としています。

地域基幹病院である兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、公立学校共済組合近畿中央病院、市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センターにおいては、阪神圏・大阪圏における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験として、急性期医療にはじまり、地域に根ざした医療・地域包括ケア・在宅医療・療養型医療などの研修が可能です。大阪大学医学部附属病院では、高度な急性期医療、専門的な内科診療ならびに希少疾患を中心とした診療を経験し、臨床研

究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。本プログラムの基幹施設である西宮市立中央病院において診療数の少ない血液、神経、腎臓の領域の研修は、兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、公立学校共済組合近畿中央病院、市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センター、大阪大学医学部附属病院での研修において診療を経験することができます。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準28,29】

本プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準16】

図. 西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム（概念図）

初期臨床研修 1年目 2年目	内科専門研修			Subspeciality研修 大学院進学 など
	専攻医1年次	専攻医2年次	専攻医3年次	
	基幹施設 (西宮市立中央病院)	連携施設	基幹施設 (西宮市立中央病院)	
必須分野 ローテート	各病院の特色を 生かした研修	内科標準型 Subspeciality重点型		

図. 西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム（スケジュールの例）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	消化器			循環器		呼吸器			糖尿病・内分泌		リウマチ・膠原病	
	外来（週1～2回）・内科救急・当直（月3回）											
2年次	連携施設での研修											病歴提出
3年次	ローテート研修(内科標準型) または Subspecialty研修(Subspecialty重点型)											
	外来（週1～2回）・内科救急・当直（月3回）											

【専攻医1年次】

- 1) 研修開始から12ヶ月間の研修期間中に内科全分野において、主担当医として最低20 疾患群、60 症例（可能であれば45疾患群、120症例）以上を経験し、専門医研修修了に必要な病歴要約を10例以上記載することを目標とします。
- 2) 研修方式は、基幹領域研修として、2ヶ月または3ヶ月ずつ内科系5診療科にて研修を行います。
- 3) 内科系救急患者の初療ならびに診断、治療を担当します。

【専攻医2年次】

- 1) 連携施設において研修を行います。初年度の終わりまでに2年次の研修先を決定します。どの連携施設も豊富な入院症例数を持っているため、多数の症例と比較的稀な疾患の経験が可能となり、1年次に研修が十分でなかった領域を中心に研修をすることが可能です。また、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践し、より総合的な内科研修が可能となります。
- 2) 2年次12ヶ月間の研修期間中に内科全分野において、主担当医として最低合計45 疾患群、120 症例（可能であれば合計56疾患群、160症例）以上を経験し、内科専門研修修了に必要な29症例の病歴要約を全て記載することを目標とします。

【専攻医3年次】

- 1) ローテート研修（内科重点型）またはSubspecialty研修（Subspecialty重点コース）を行います。研修期間中にSubspecialty領域以外の研修が不十分と判断した場合は、希望するSubspecialty領域の診療科に所属しながら、経験が不足する領域の診療科にも研修を並行して行う場合もあります。その他、Subspecialty領域以外の関連する科の研修を希望される場合は柔軟にローテーションを調整します。
- 2) 研修修了までに、修了認定に必要な56疾患群、160症例（可能であれば70疾患群、200症例以上）を登録することを目標とします。

3) 1年次に引き続き、内科系救急患者の初療ならびに診断、治療を担当します。

※各専攻医に合わせた柔軟なプログラム編成を検討し実施します。そのために経験が必要な症例が不足している領域に関してはローテーション研修または並行研修を追加することもあります。

※連携施設での研修時期は3年間のうち2年目の1年間を原則としますが、連携施設の受入れ状況、専攻医の希望ならびに研修進捗状況等と照し合わせながら、調整します。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準17,19-22】

1) 西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会の役割

- 西宮市立中央病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について、J-OSLERを基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- 3か月ごとにJ-OSLERにて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医によるJ-OSLERへの記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は、該当疾患の診療経験を促します。
- 6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 年に複数回（毎年8月と2月）、専攻医自身の自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。
- メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を少なくとも年1回（必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査技師・放射線技師・臨床工学技士、事務職員などから、接点の多い職員を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLERに登録します（他職種はシステムにアクセスしない）。その結果はJ-OSLERを通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

2) 専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医1人に1人の担当指導医（メンター）が内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。

- 専攻医はwebにてJ-OSLERにその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 専攻医は、1年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める70疾患群のうち20疾患群、60症例以上の経験と登録を行うようにします。2年目専門研修終了時に70疾患群のうち45疾患群、120症例以上の経験と登録を行うようにします。3年目専門研修終了時には70疾患群のうち56疾患群、160症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価や内科専門研修プログラム管理委員会からの報告などにより、研修の進捗状況を把握します。専攻医はSubspecialty上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とSubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 専攻医は、専門研修（専攻医）2年修了時までには29症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLERに登録します。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

4) 修了判定基準【整備基準53】

- ① 担当指導医は、J-OSLERを用いて研修内容を評価し、以下i)~vi)の修了を確認します。
 - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができる）を経験することを目標とします。その研修内容をJ-OSLERに登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができる）を経験し登録します。
 - ii) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
 - iii) 所定の2編の学会発表または論文発表
 - iv) JMECC受講
 - v) プログラムで定める講習会受講
 - vi) J-OSLERを用いてメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

- ② 内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約1か月前に内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ、統括責任者が修了判定を行います。

5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLERを用います。なお、「西宮市立中央病院 内科専攻医研修マニュアル」【整備基準44】（P.67）と「西宮市立中央病院 内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準45】（P.76）とを別に示します。

1 3. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準34,35,37-39】

1) 西宮市立中央病院 内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

- i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者、事務局代表者、内科各Subspeciality分野の研修指導責任者（診療科部長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます。

（下記、西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム管理委員会参照）

- ii) 西宮市立中央病院 内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長1名は、基幹施設・連携施設との連携のもと活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、基幹施設で開催される西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。西宮市立中央病院 内科専門研修委員会は、各内科研修分野の責任医師・事務局代表者で構成されます。（下記、西宮市立中央病院 内科専門研修委員会参照）

- iii) 基幹施設、連携施設ともに、毎年4月30日までに、西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績

- a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1か月あたり内科外来患者数、e) 1か月あたり内科入院患者数、f) 剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

- a) 前年度の専攻医の指導実績、b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数、c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数

③ 前年度の学術活動

- a) 学会発表、b) 論文発表

④ 施設状況

- a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e) 抄読会、f) 机、g) 図書館、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j) JMECCの開催

⑤ Subspecialty領域の専門医数

消化器専門医（日本消化器病学会）、循環器専門医（日本循環器学会）、内分泌代謝科専門医（日本内分泌学会）、糖尿病専門医（日本糖尿病学会）、腎臓専門医（日本腎臓学会）、呼吸器専門医（日本呼吸器学会）、血液専門医（日本血液学会）、神経内科専門医（日本神経学会）、アレルギー専門医（日本アレルギー学会）、リウマチ専門医（日本リウマチ学会）、感染症専門医（日本感染症学会）、救急科専門医（日本救急医学会）

2024年度 西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム管理委員会（2024年4月現在）

西宮市立中央病院

小川 弘之（委員長、プログラム統括責任者、副院長 消化器内科分野責任者）
平野 亨（プログラム管理者、リウマチ・膠原病・アレルギー、総合内科分野責任者）
日下部 祥人（呼吸器内科、感染症分野責任者）
野嶋 祐兵（循環器内科、救急分野責任者）
合屋 佳世子（糖尿病・内分泌内科分野責任者）
上垣 雅裕（事務局代表者）

連携施設担当委員

兵庫県立西宮病院 西山 浩彦
市立伊丹病院 村山 洋子
市立吹田市民病院 鉄本 訓史
公立学校共済組合近畿中央病院 上道 知之
大阪府済生会千里病院 増田 栄治
日本生命病院 橋本 久仁彦
箕面市立病院 森谷 真之
りんくう総合医療センター 烏野 隆浩
第二大阪警察病院 比嘉 慎二
大阪急性期・総合医療センター 林 晃正
市立豊中病院 小杉 智
大阪警察病院 飯島 英樹
国立病院機構大阪医療センター 三田 英治
市立池田病院 石田 永
大阪市立総合医療センター 成子 隆彦
大阪大学医学部附属病院 辻本 考平
近畿中央呼吸器センター 滝本 宜之

オブザーバー 内科専攻医代表 1名

2024年度 西宮市立中央病院 内科専門研修委員会（2024年4月現在）

【指導医師名】

池田 聡之	院長
小川 弘之	副院長、消化器内科主任部長
日下部 祥人	呼吸器内科部長
平野 亨	リウマチ・膠原病内科部長
野嶋 祐兵	循環器内科部長
合屋 佳世子	糖尿病・内分泌内科部長
足達 英悟	循環器内科部長
林 典子	消化器内科部長
濱野 美奈	消化器内科部長
藤永 哲治	消化器内科部長
二木 俊江	呼吸器内科部長
田淵 優希子	糖尿病・内分泌内科医長
高安 幸太郎	循環器内科医長
貫野 真由	糖尿病・内分泌内科医長 指導医申請中
小川 恭生	リウマチ・膠原病内科医長 指導医申請中

1 4. プログラムとしての指導者研修 (FD) の計画【整備基準18,43】

- 指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。
- 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
- 指導者研修 (FD) の実施記録として、J-OSLERを用います。
- プログラム内容の理解および指導医スキル向上を目的に指導医養成講習会に参加します。

1 5. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準40】

- 労働基準法や医療法を順守することを原則とします。
- 研修中である基幹施設、連携施設それぞれの就業環境に基づき就業します。

基幹施設である西宮市立中央病院の整備状況

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 常勤医師として労働環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。
- ハラスメントに適切に対処する部署（セクシュアル&パワーハラスメント対策委員会）があります。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 近接地に保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.23「西宮市立中央病院内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

1 6. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準48-51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLERを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は少なくとも年に1回行います。集計結果は担当指導医、施設の内科専門研修委員会、および内科専門研修プログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、西宮市立中央病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会はJ-OSLERを用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- 担当指導医、施設の内科専門研修委員会、西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会はJ-OSLERを用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して、内科専門研修プログラムを評価します。
- 担当指導医、各施設の内科研修委員会、西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会はJ-OSLERを用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会は、内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて内科専門研修プログラムの改良を行います。内科専門研修プログラム更新の

際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準52】

西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会は、websiteでの公表や説明会などを行い、専攻医を募集致します。翌年度のプログラムへの応募者は、西宮市立中央病院のwebsiteの医師募集要項（西宮市立中央病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

問い合わせ先：

西宮市立中央病院 人事給与課

TEL：0798-64-1515 内線315

FAX：0798-67-4811

E-mail：vo_h_jinkyu@nishi.or.jp

<https://www.hospital-nishinomiya.jp>

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には、適切にJ-OSLERを用いて西宮市立中央病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから西宮市立中央病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。他の領域から西宮市立中央病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに西宮市立中央病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLERへの登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たしていれば、休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算(1日8時間、週5日を基本単位とする)を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は原則として研修期間として認めません。

19. 西宮市立中央病院内科専門研修施設群

図1. 西宮市立中央病院内科専門研修施設概要

初期臨床研修 1年目 2年目	内科専門研修			Subspeciality研修 大学院進学 など
	専攻医1年次	専攻医2年次	専攻医3年次	
	基幹施設 (西宮市立中央病院)	連携施設	基幹施設 (西宮市立中央病院)	
必須分野 ローテート	各病院の特色を 生かした研修	内科標準型	Subspeciality重点型	

表1. 西宮市立中央病院内科専門研修施群の研修施設一覧

	病院	病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数
基幹施設	西宮市立中央病院	257	5	15	9
連携施設	県立西宮病院	400	9	22	16
連携施設	市立伊丹病院	414	9	31	18
連携施設	市立吹田市民病院	431	7	28	15
連携施設	近畿中央病院	445	7	22	13
連携施設	日本生命病院	350	7	25	14
連携施設	済生会千里病院	333	6	11	10
連携施設	箕面市立病院	317	5	18	11
連携施設	りんくう総合医療センター	388	9	22	13
連携施設	第二大阪警察病院	341	3	9	7
連携施設	大阪急性期・総合医療センター	865	9	37	30
連携施設	市立豊中病院	549	7	25	25
連携施設	大阪警察病院	580	5	10	12
連携施設	大阪医療センター	638	9	33	24
連携施設	市立池田病院	364	8	23	19
連携施設	大阪市立総合医療センター	1063	13	57	42
連携施設	大阪大学医学部附属病院	1086	10	132	135
連携施設	近畿中央呼吸器センター	385	7	19	17

表2. 各施設の内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
西宮市立中央病院	○	○	○	○	○	△	○	×	×	○	○	○	○
県立西宮病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立伊丹病院	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○
市立吹田市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
近畿中央病院	△	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
日本生命病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会千里病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	△	○
箕面市立病院	○	○	○	○	○	△	△	○	○	△	×	○	○
りんくう総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
第二大阪警察病院	○	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	×
大阪急性期・総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立豊中病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪警察病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○
大阪医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
市立池田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
大阪市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
近畿中央呼吸器センター	△	×	×	×	×	×	○	×	×	△	△	○	×

専門研修施設群の構成要件【整備基準25】

本プログラムは、兵庫県阪神南医療圏の中核病院である西宮市立中央病院を基幹施設として、阪神医療圏や神戸医療圏など近隣医療圏の医療機関（兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、公立学校共済組合近畿中央病院）、大阪府下の医療機関（市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センター、大阪大学医学部附属病院、国立病院機構近畿中央呼吸器センター）と連携した内科専門研修プログラムです。基幹施設である西宮市立中央病院は、兵庫県阪神南医療圏の中心的な急性期病院であるとともに地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験を得ることができます。地域の病診・病病連携の中核でもあり、高次機能病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけられるように、また、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、公立学校共済組明近畿中央病院、市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センター、大阪大学医学部附属病院、国立病院機構近畿中央呼吸器センターを連携施設としています。

地域基幹病院である兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、公立学校共済組明近畿中央病院、市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センターにおいては、阪神圏・大阪における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験として、急性期医療にはじまり、地域に根ざした医療・地域包括ケア・在宅医療・療養型医療などの研修が可能です。大阪大学医学部附属病院では、高度な急性期医療・より専門的な内科診療ならびに希少疾患を中心とした診療を経験し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。本プログラムの基幹施設である西宮市立中央病院において診療数の少ない血液、神経、腎臓の領域の研修は、兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、公立学校共済組明近畿中央病院、市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センター、大阪大学医学部附属病院での研修において診療を経験することができます。

専門研修施設（連携施設）の選択

- 専攻医2年次開始前に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- 専攻医2年次までに最低合計45疾患群、120症例（可能であれば合計56疾患群、160症例）以上経験することを目標として、原則12ヶ月間の連携施設研修を行います。

図. 西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム（スケジュールの例）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	消化器		循環器		呼吸器			糖尿病・内分泌		リウマチ・膠原病		
	外来（週1～2回）・内科救急・当直（月3回）											
2年次	連携施設での研修											病歴提出
3年次	ローテート研修(内科標準型) または Subspeciality研修(Subspeciality重点型)											
	外来（週1～2回）・内科救急・当直（月3回）											

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準26】



20. 専門研修施設群概要

1) 専門研修基幹施設

西宮市立中央病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・西宮市立中央病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・各種ハラスメント相談窓口（セクシュアル&パワーハラスメント対策委員会）が西宮市立中央病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 15 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（リウマチ・膠原病内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修委員会（管理室）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2023 年実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（院内学術集会：西宮地域医療連携セミナー、院内感染対策講習会、南阪神肝疾患病診連携セミナー、西宮二次救急輪番循環器カンファレンスなど：2023 年度実績 5 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（管理室）が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研修に必要な剖検（2022年1体、2023年度は実施なし）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、インターネット（Wifi）、統計ソフトウェアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023年度実績7回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2023年度実績11回）しています。
指導責任者	<p>小川 弘之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】西宮市立中央病院は、阪神医療圏の中心的な急性期病院であり、地域に根ざした第一線の病院でもあります。近隣医療圏、大阪医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。患者本位の全人的な医療サービスが提供できる責任感のある医師になれるよう、また学究的な医師となれるように指導させていただきます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会総合内科専門医 9名 日本消化器病学会消化器専門医 4名 日本循環器学会循環器専門医 4名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2名 日本アレルギー学会アレルギー専門医 1名 日本肝臓学会肝臓専門医 3名、ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者384名（1日平均） 入院患者109名（1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</p>

	日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設
--	---

2) 専門研修連携施設

1. 兵庫県立西宮病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> • 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 地方公務員法第 22 条第 2 項の規定に基づく臨時的任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています。また公舎等の利用が可能です。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります。希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 • 院内にハラスメント委員会を設置しました。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 • 敷地内に院内保育所があり、18時まで保育時間を延長する延長保育を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> • 指導医が 22 名在籍しています（下記）。 • 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023 年度実績医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、ZOOM 配信により専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンス（2024 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • CPC を定期的で開催（2017 年度実績 12 回・12 体分、2018 年度実績 4 回・4 体分、2019 年度実績 10 回・10 体分、2020 年度実績 2 回・2 体分、2021 年度実施 4 体、2022 年度実施 2 体、2023 年度実施 2 体）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 地域参加型のカンファレンス（2023 年度実績 42 回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していま

	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門研修に必要な剖検（2017年度実績12体，2018年度実績4体，2019年度実績10体，2020年2体，2021年度4体，2022年度実施2体、2023年度実施2体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2017-2022年度実績6演題、2023年度実績9演題）をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023年度実績12回）しています。 ・ 治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2023年度実績12回）しています。 ・ 臨床研究センターを設置しています。 ・ 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています。 ・ 臨床教育センターを設置しています。
指導責任者	<p>梶原 啓之（ならはら ひろゆき）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>兵庫県立西宮病院は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪神電車から徒歩1分にあります。兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、チーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています。兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部附属病院・兵庫医科大学・関西医科大学・大阪医科薬科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本プログラムは、初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して、質の高い内科専門医を育成するものです。医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 22名，日本内科学会総合内科専門医 16名 日本消化器病学会消化器病専門医10名，日本肝臓学会肝臓専門医8名， 日本循環器学会循環器専門医3名，日本内分泌学会専門医3名，日本腎臓学会腎臓専門医5名，日本糖尿病学会専門医3名，ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者11,003名（1ヶ月平均） 入院患者9,246名（1ヶ月平均延数）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます。</p>

<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMATカーを含めて超急性期症例を経験できます。また急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会特別連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本胆道学会認定指導施設 日本禁煙学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 など</p>

2. 市立伊丹病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 伊丹市非常勤医師として労務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事研修担当）があります。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 • 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 指導医は 31 名在籍しています。 • 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）（内科指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 • 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委

	<p>員会と臨床研修センターを設置しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> •医療倫理。医療安全。感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績5回、2020年度実績9回、2021年度実績9回、2022年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催（2019年度実績12回、2020年度実績9回、2021年度実績8回、2022年度実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンス（伊丹市医師会内科医会循環器フォーラム、伊丹市医師会内科医会糖尿病フォーラム、伊丹市医師会内科医会呼吸器疾患フォーラム、伊丹市医師会消化器勉強会。外科医会合同講演会、伊丹市医師会内科医会講演会、登竜門カンファレンス、神戸GMカンファレンスなど、；2019年度実績25回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2016年9月に第1回を開催、2017年5月に第2回、2018年5月に第3回を開催、2019年5月に第4回を開催、2022年10月に第5回を開催、2023年6月に第6回を開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 •70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも58以上の疾患群）について研修できます（上記）。 •専門研修に必要な剖検（2018年度実績10体、2019年度13体、2020年度8体、2021年度9体、2022年度12体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 •倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019年度実績9回、2020年度実績3回、2021年度実績9回、2022年度実績7回）しています。 •治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2019年度実績11回、2020年度実績8回、2021年度実績8回、2022年度実績11回）しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2019年度実績3演題、2020年度実績3演題、2021年度実績5演題、2022年度実績3演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>村山洋子 【内科専攻医へのメッセージ】</p>

	<p>市立伊丹病院は、兵庫県阪神医療圏の中心的な急性期病院であり、阪神医療圏。近隣医療圏にある連携施設。特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診。入院～退院。通院〉まで経時的に、診断。治療の流れを通じて、社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 31 名, 日本内科学会総合内科専門医 18 名, 日本消化器病学会消化器指導医 4 名,日本消化器病学会消化器専門医 7 名, 日本消化器内視鏡学会指導医 4 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 8 名, 日本肝臓学会指導医 1 名, 日本肝臓学会専門医 4 名, 日本循環器学会循環器専門医 6 名, 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名,日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名, 日本血液学会血液指導医 3 名,日本血液学会血液専門医 4 名, 日本糖尿病学会指導医 1 名,日本糖尿病学会専門医 4 名, 日本アレルギー学会指導医 (内科) 1 名, 日本リウマチ学会指導医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 1 名, 日本老年医学会指導医 2 名, 日本臨床腫瘍学会指導医1名 ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者18,447名 (1ヶ月平均) 新入院患者791名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 臨床研修病院 (基幹型) 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本糖尿病学会認定教育施設</p>

	<p>日本高血圧学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本循環器学会専門医制度研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本人間ドック学会専門医制度研修関連施設 日本老年医学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 など</p>
--	--

3. 公立学校共済組合近畿中央病院

<p>認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・公立学校共済組合近畿中央病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>内科学会 指導医は22名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2020年度実績各2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2020年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<ul style="list-style-type: none"> •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準【整備基準24】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち12分野（血液を除く）では定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> •専門研修に必要な剖検（2018年度9体、2019年度9体、2020年度3体）を行っています。
<p>認定基準【整備基準24】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 •倫理委員会を設置し、定期的に開催（2020年度実績4回）しています。 •治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2020年度実績10回）しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	<p>上道知之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>公立学校共済組合近畿中央病院は、阪神北医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>
指導医数（常勤医）	<p>日本内科学会指導医22名、日本内科学会総合内科専門医13名、日本循環器学会循環器専門医5名、日本消化器病学会消化器専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医4名、日本神経学会神経内科専門医3名、日本腎臓病学会腎臓専門医3名、日本肝臓学会肝臓専門医2名、日本内分泌学会内分泌専門医1名、日本糖尿病学会糖尿病専門医2名、日本リウマチ学会リウマチ専門医7名ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来延患者数 64,521名/年（2020年度）</p> <p>入院延患者数 40,601名/年（2020年度）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設（内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本インターベンション治療学会研修関連施設</p>

	<p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度教育施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設など</p>
--	---

4. 市立吹田市民病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •医師（非常勤職員）として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務室職員、公認心理師）があります。 •ハラスメントに適切に対処するための部署（ハラスメント窓口担当）があります。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 •敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •指導医は28名在籍しています。 •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（病院長）（総合内科専門医かつ指導医），プログラム管理者（内科部長）（総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022年度実績10回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的で開催（2022年度実績4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。

	<p>務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> •地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
<p>認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 •70疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 •専門研修に必要な剖検（2020年度5体、2021年度4体、2022年度5体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 •倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022年度実績4回）しています。 •治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022年度実績11回）しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2020年度実績4演題、2019年度実績5演題、2018年度実績4演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>火伏俊之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立吹田市民病院は、大阪県豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (内科系常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医8名、日本内科学会総合内科専門医15名 日本消化器病学会消化器専門医8名、日本肝臓病学会専門医7名 日本循環器学会循環器専門医4名、日本糖尿病学会専門医3名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、日本血液学会血液専門医4名、</p>

	日本神経学会神経内科専門医3名，日本アレルギー学会専門医（内科）1名， 日本リウマチ学会リウマチ専門医2名 ほか
外来・入院患者数	外来患者18,146名（1か月平均） 入院患者755名（1か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 大阪府癌診療拠点病院指定書 臨床研修認定病院 など

5. 済生会千里病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> • 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 常勤医師として労務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（職員のメンタル管理の
--------------------------------	---

	<p>仕事を中心とする臨床心理士1名が配属)があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> •ハラスメント委員会が院内に設置されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、女医休憩室、女医当直室、更衣室、シャワー室が整備されています。 •管理棟内に職員家族用の院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •指導医は11名在籍しています。 •内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設の研修委員会との連携を図り専攻医の研修を管理します。 •医療倫理研修会・医療安全研修会・感染対策研修会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンス(千里診療連携セミナー)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •日本専門医機構による施設実地調査に専攻医研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •カリキュラムに示す内科領域13分野のうち8分野(総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、膠原病、救急)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70疾患群のうち56疾患群について研修できます。 •専門研修に必要な剖検(2021年度3体)を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •臨床研究に必要な図書室を整備しています。医学中央雑誌のweb版(医中誌web)、「メディカルオンライン」が利用できます。英語の文献は近畿病院図書室協議会のKITOcatのシステムを利用して文献を取り寄せることが可能です。その他、英語で「UpToDate」が、日本語で「今日の臨床サポート」が使用できます。 •外部委員も参加する倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 •治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に継続して学会発表をしています。

指導責任者	<p>プログラム統括責任者：増田 栄治 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とも連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医2名、日本消化器病学会消化器指導医<u>2</u>名、日本消化器内視鏡学会指導医1名、日本肝臓学会指導医1名、日本超音波医学会指導医4名、日本呼吸器学会指導医2名、日本内科学会総合内科専門医<u>10</u>名、日本消化器病学会消化器専門医<u>6</u>名、日本循環器学会循環器専門医<u>9</u>名、日本糖尿病学会専門医<u>2</u>名、日本腎臓病学会専門医<u>1</u>名、日本呼吸器学会呼吸器専門医<u>3</u>名、日本血液学会血液専門医<u>0</u>名、日本神経学会神経内科専門医<u>0</u>名、日本アレルギー学会専門医(内科)<u>0</u>名、日本リウマチ学会専門医<u>1</u>名、日本感染症学会専門医<u>0</u>名、日本救急医学会救急科専門医<u>8</u>名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>新外来患者数 1875 名 (1ヶ月平均) (2022 年度) 新入院患者数448名 (1ヶ月平均 (2022年度))</p>
経験できる疾患群	<p>当院において研修手帳(疾患群項目表)にある13領域にある56疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脈管学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設</p>

	日本救急医学会指導医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
--	--

6. 日本生命病院

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は25名在籍しています。（2022年3月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2021年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2021年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医JMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準24】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。（上記） ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準【整備基準24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本 久仁彦

	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和6年に設立しました。現在では28診療科・9診療センター、病床数350を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスの提供を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医療にも貢献し、全人的医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。</p>
指導医数（常勤医）	<p>日本内科学会指導医25名、 日本内科学会総合内科専門医14名、 日本消化器病学会消化器専門医10名、 日本消化器内視鏡学会専門医7名、 日本肝臓学会専門医5名、 日本循環器学会専門医3名、 日本高血圧学会専門医2名、 日本糖尿病学会専門医5名、 日本内分泌学会専門医3名、 日本リウマチ学会専門医1名、 日本呼吸器学会専門医2名、 日本血液学会血液専門医3名、 日本神経学会専門医2名、 日本腎臓学会専門医2名、 日本透析医学会専門医2名、 日本老年学会老年病専門医1名 日本救急医学会救急科専門医1名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者367名（一日平均） 入院患者149名（一日平均）（2021年度）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設（内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設</p>

	<p>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本膵臓学会認定指導施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本超音波医学会専門医制度研修施設</p> <p>日本胆道学会指導施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本アレルギー学会専門医教育施設</p> <p>日本血液学会血液研修施設</p> <p>日本神経学会専門医制度准教育施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会認定制度認定施設</p> <p>日本臨床細胞学会認定施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科）</p> <p>日本認知症学会専門医制度教育施設</p> <p style="text-align: right;">（2022年4月1日現在）</p>
--	---

7. 箕面市立病院

<p>認定基準</p> <p>[整備基準 24]</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 任期付職員として労務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局病院人事室）があります。 • ハラスメント委員会が整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 • 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>[整備基準 24]</p>	<p>指導医は 18 名在籍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修

<p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> •医療倫理、医療安全、感染対策講習会等を定期的に開催（2022年度実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催（2022年度実績 4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンス（箕面市病診連携懇談会、研修会、箕面市立病院登録医意見会研修会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 •専門研修に必要な剖検（2022年度実績2体、2021年度実績3体、2020年度実績6体、2019年度実績12体、2018年度実績12体、2017年度実績8体、2016年度実績10体）を行っています。
<p>認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2022 年度実績 4回）。 •治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています（2022 年度実績 1回）。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>森谷 真之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>箕面市立病院は、豊能医療圏の中心となる急性期病院のひとつであり、大阪大学医学部附属病院および、豊能医療圏および阪神地域の医療圏の病院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。</p>
<p>指導医数（常勤）</p>	<p>日本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医11名、日本消化器病学会消化器病専門医10名、日本肝臓病学会肝臓専門医3名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本糖尿病学会専門医2名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医2名、日本腎臓病学会腎臓専門医1名（内科0名）、日本呼吸器学会呼吸器専門医0名、日本血液学会血液専門医4名、日本神経学会神経内科専門医3名、日本アレルギー</p>

	一学会専門医0名，日本リウマチ学会リウマチ専門医1名（内科0名），日本感染症学会感染症専門医0名，日本救急医学会救急科専門医1名，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医5名
外来。入院患者数 （内科系）	外来延患者数 168,210 名/年（2022 年度） 入院延患者数80,205名/年（2022年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術、技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術。技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会N S T稼働認定施設 など

8. りんくう総合医療センター

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> •初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •地方独立行政法人の非常勤医師（医師免許取得後6年目からは常勤医師）として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 •ハラスメント委員会が院内に整備されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 •敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準24】	<ul style="list-style-type: none"> •指導医は11名在籍しています。

<p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副病院長）、プログラム管理者（総合内科・感染症内科部長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修委員会を設置します。 •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPCを定期的開催（2021年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンス（りんくうカンファレンス、臨床集談会、泉州地域医療フォーラム、りんくう循環器ネットワーク研究会、りんくう糖尿病病診連携の会、泉州COPDフォーラム、泉州消化器フォーラム、南泉州神経フォーラムなど例年20～30回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（連携群の施設での開催において受講予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •日本専門医機構による施設実地調査に教育研修委員会が対応します。
<p>認定基準【整備基準24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも11分野以上）で専門研修が可能な症例数を診療しています。 •70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 •専門研修に必要な剖検（2021年度実績9体、2020年度実績9体、2019年度実績10体、2018年度実績14体、2017年度実績7体、2016年度実績5体、2015年度12体）を行っています。
<p>認定基準【整備基準24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 •倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 •治験事務局を設置し、定期的治験委員会を開催（2020年度実績12回）しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を年間5～6演題出しています。

指導責任者	<p>烏野隆博</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏および近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、さらに、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもった内科専門医になります。</p>
指導医数（常勤医）	<p>日本内科学会指導医12名 日本循環器学会専門医6名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医11名</p> <p>日本消化器病学会専門医4名、指導医1名</p> <p>日本肝臓学会専門医2名 日本呼吸器学会専門医2名</p> <p>日本腎臓病学会指導医4名 日本透析医学会指導医2名</p> <p>日本リウマチ学会専門医3名 日本糖尿病学会専門医4名</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医2名</p> <p>日本血液学会専門医3名、指導医3名</p> <p>日本神経学会専門医3名、指導医3名</p> <p>日本アレルギー学会専門医1名 日本感染症学会専門医2名</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医3名</p> <p>日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医2名</p> <p>日本救急医学会救急科専門医11名</p> <p>日本集中治療医学会専門医2名</p>
外来・入院患者数	<p>外来延患者 4,780名（1ヶ月平均）</p> <p>入院延患者 2,973名（1ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設（内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p>

	<p>日本血液学会血液研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定医制度教育関連施設 日本消化器内視鏡学会関連認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会連携研修施設 日本救急医学会救急科指導医・専門医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育施設 など</p>
--	--

9. 第二大阪警察病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 臨床研修指定病院（協力型）です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。 • 第二大阪警察病院常勤医師として労務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する体制が整備されています。 • セクシャルハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 • 社会医療法人警和会が運営する託児施設への紹介、利用が可能です。 • 大阪警察病院が運営する病児保育施設への紹介、利用が可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 指導医は9名(2023年4月現在)在籍しています。 • 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者：比嘉 慎二）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 • 医療安全・感染対策講習会を定期的を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（昨年度 医療安全 2回、感染対策講習 2回）

	<ul style="list-style-type: none"> •研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(昨年度2回開催) •CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(昨年度6回開催) •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(昨年度8回開催) •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 																				
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 7 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 •70 疾患群のうち 34 疾患群について当院で研修できます。 •専門研修に必要な剖検（一昨年度 8 体、昨年度 2 体）を行っています。 																				
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 •倫理委員会を設置し定期的に開催しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（一昨年度 4 演題、昨年度 2 演題） 																				
<p>指導責任者</p>	<p>比嘉慎二（膠原病・リウマチ科部長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は大阪大学の関連の内科系の強い大阪都市部の中規模総合病院です。血液・リウマチ膠原病・腎臓といった領域において大阪大学と連携しながら専門医取得をめざします。当院では、希少疾患や領域を含めた多疾患を担当する幅広い内科系診療科がありますので、さまざまな領域の疾患があります。大きすぎない規模の病院ならではの垣根の低さで、幅広い疾患群の患者をそれほど苦労することなく経験することができます。また当院は特に救急診療に特化した病院ではありませんので、救急診療の負担はそれほど多くありません。じっくりと自身が目指すサブスペ領域の研修に打ち込むことができます。</p>																				
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<table> <tr> <td>日本内科学会指導医</td> <td>9 名</td> <td>日本内科学会総合内科専門医</td> <td>7 名</td> </tr> <tr> <td>日本循環器学会専門医</td> <td>1 名</td> <td>日本内分泌学会専門医</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>日本糖尿病学会専門医</td> <td>2 名</td> <td>日本腎臓学会専門医</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>日本透析医学会専門医</td> <td>2 名</td> <td>日本血液学会血液専門医</td> <td>3 名</td> </tr> <tr> <td>日本アレルギー学会専門医</td> <td>2 名</td> <td>日本リウマチ学会専門医</td> <td>4 名</td> </tr> </table> <p>(2023 年 4 月現在)</p>	日本内科学会指導医	9 名	日本内科学会総合内科専門医	7 名	日本循環器学会専門医	1 名	日本内分泌学会専門医	1 名	日本糖尿病学会専門医	2 名	日本腎臓学会専門医	1 名	日本透析医学会専門医	2 名	日本血液学会血液専門医	3 名	日本アレルギー学会専門医	2 名	日本リウマチ学会専門医	4 名
日本内科学会指導医	9 名	日本内科学会総合内科専門医	7 名																		
日本循環器学会専門医	1 名	日本内分泌学会専門医	1 名																		
日本糖尿病学会専門医	2 名	日本腎臓学会専門医	1 名																		
日本透析医学会専門医	2 名	日本血液学会血液専門医	3 名																		
日本アレルギー学会専門医	2 名	日本リウマチ学会専門医	4 名																		

外来・入院患者数	外来延患者数：49,094人 入院患者数：26,427人（昨年度内科系のみ）
経験できる疾患群	・神経系疾患ときわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある7領域、34疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会 認定施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本透析医学会 認定施設 日本アレルギー学会 アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 日本腎臓学会 研修施設 日本血液学会 研修施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設

10. 大阪急性期・総合医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪府こころの健康総合センター）が、病院と公園をはさんで隣にあります。 ・バランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 ・指導医は2022年3月の時点で37名在籍しています。 ・専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催（2022年度実績 医療倫理0回、医療安全9回、感染対策4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<ul style="list-style-type: none"> •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催 (2022 年度実績：7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンス (病診連携カンファレンス 2022 年度実績 0 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2022 年度実績 2 演題)をしています。
指導責任者	大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者 林晃正
指導医数 (常勤)	日本内科学会指導医 37 名、日本内科学会総合内科専門医 30 名
外来・入院 患者数	2022 年実績：外来患者 1465 名 (平均/日)、入院患者 21213 名/年
経験できる疾患群	専攻医登録評価システム (J-OSLER)にある内科 13 領域、70 疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センターは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24 時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病々連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

	<p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会認定医認定施設</p> <p>日本高血圧学会専門医制度認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本アレルギー学会専門医教育施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本神経学会専門医教育施設</p> <p>日本血液学会研修施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設</p> <p>日本内科学会専門医制度研修施設</p> <p>日本感染症学会研修認定施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>心血管インターベンション学会研修施設</p> <p>植え込み型除細動器移植・交換術認定施設</p> <p>両室ペースメーカー移植術認定施設</p> <p>日本胆道学会指導施設</p> <p>経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌科認定教育施設</p> <p>日本甲状腺学会認定専門医施設</p> <p>日本緩和医療学会認定研修施設</p> <p>日本内分泌学会連携医療施設</p> <p>日本超音波医学会超音波専門医研修施設</p>
--	--

11. 市立豊中病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi 環境があります。 • 豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 • ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 • 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
---	---

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 指導医は 25 名在籍しています (2024 年 4 月 1 日現在)。 • 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 • 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します。 • 医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 地域参加型のカンファレンス (北大阪内科研究会、豊中糖尿病勉強会、豊中消化器病懇話会、北摂内視鏡治療研究会、待兼山神経懇話会、北摂血液疾患談話会、中之島循環器代謝フォーラムなど) を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講 (2023 年度開催実績 1 回) を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23/31】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 • 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 • 専門研修に必要な剖検 (2019 年度 2 体、2020 年度 6 体、2021 年度 9 体、2022 年度 8 体、2023 年度 7 体) を行っています。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 臨床研究に必要な図書室、臨床研究センターを整備しています。 • 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 • 治験審査委員会を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 • 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています (2023 年度実績 9 演題)。
<p>指導責任者</p>	<p>小杉 智 (内科主任部長、血液内科主任部長)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立豊中病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤内科医)</p>	<p>日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名</p> <p>日本専門医機構認定 (新) 内科専門医 4 名</p>

2024年4月1日現在	日本消化器病学会消化器専門医9名、日本肝臓病学会専門医6名 日本循環器学会循環器専門医9名、日本糖尿病学会専門医3名、 日本内分泌学会専門医3名、日本腎臓病学会専門医4名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本血液学会血液専門医4名、 日本神経学会神経内科専門医4名、日本アレルギー学会専門医1 名、日本臨床腫瘍学会専門医2名、日本内視鏡学会専門医6名
外来・入院患者数（内 科系）	外来延患者数 114,021名/年（2023年度） 入院件数 6,519件/年（2023年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領 域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際 の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診 療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医 療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設など

12. 大阪警察病院

認定基準 【整備基準 23】	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型、協力型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります
-------------------	---

<p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤医師（特定任期付職員）として労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課厚生係）があります ・ハラスメント窓口（人事課）が整備されています ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩コーナー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています ・院内に病児保育室があり、利用可能です ・託児手当があり、利用可能です（子が3歳に達する迄）
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は10名在籍しています(2023年4月現在) ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修管理室を設置します ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2020年度実績3回、2021年度実績3回、2022年度実績3回、）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・CPCを定期的に開催（2021年度実績14回、2022年度実績14回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をあたえます ・地域参加型のカンファレンス（天王寺区医師会・病院合同講演会年1回、臨床医講習会年4回、各内科診療科地域連携講演会年5回前後、夕陽丘緩和ケア連絡会年3-4回など）を定期的に開催し、専攻医に参加のための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2020年度実績1回、2021年度実績1回、2022年度実績1回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門医研修管理室が対応します
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも10分野）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも56以上の疾患群）について研修できます ・専門研修に必要な剖検（2020年度実績18体、2021年度実績13体、2022年度実績13体）を行っています

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 23】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室，OA ルームなどを整備しています ・倫理委員会を設置し，定期的（2021 年度実績 12 回，2022 年度実績 12 回）に開催しています ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2018 年度実績 11 回，2019 年度実績 11 回）しています ・日本内科学会講演会（および内科学会ことはじめ）あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2020 年度実績 12 題，2021 年度実績 15 題，2022 年度実績 15 題）をしています ・学会等への参加は出張扱いとし，出張費を支給しています（当院規定による）
<p>指導責任者</p>	<p>飯島 英樹</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪警察病院は，大阪府大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり，二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>地域医療における救急診療の要として，「断らない医療をモットー」に二次医療圏のみならず，大阪府下・近隣府県の救急疾患・急性期疾患の医療に応需しております。</p> <p>内科専門医外来，E R・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて，初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を，また，高齢者医療，慢性期疾患，癌疾患などの継続的な診療など，多数の症例を経験することができます。一方，入院症例においては，入院から退院（初診・入院～退院・通院）経時的に，診断・治療の流れを経験することで，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただけます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 7 名，日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 14 名，日本肝臓学会肝臓専門医 5 名， 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 1 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 2 名　ほか（2023 年 4 月現在）</p>
<p>外来・入院患者数 (2022 年度実績)</p>	<p>(病院全体) 外来患者 29,522 名 (1 ヶ月平均)，入院患者 1,251 名 (1 ヶ月平均)</p> <p>(うち内科系) 外来患者 12,414 名 (1 ヶ月平均)，入院患者 531 名</p>

	(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめてまれな疾患をのぞいて、 <u>研修手帳(疾患群項目表)</u> にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	・ <u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 専門医制度認定教育病院 日本感染症学会 認定研修施設 日本肝臓学会 認定医制度認定施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本救急医学会 専門医指定施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本循環器学会 専門医認定研修施設 日本消化器内視鏡学会 専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会 認定施設 日本神経学会 専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本内分泌学会 内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 など

13.国立病院機構大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> •初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 •ハラスメント委員会が院内に整備されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 •敷地内に院内保育所があり、病児保育、病事後保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの	<ul style="list-style-type: none"> •指導医は30名在籍しています。 •内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

環境	<ul style="list-style-type: none"> •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 •医療倫理は年3回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務づけられます。医療安全セミナーを年14回、感染対策セミナーを年12回開催し、専攻医に受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 •CPCを毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、緩和ケアセミナー）を定期的に行い、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 •プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 •日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> •カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 •70疾患群のうち69疾患群について研修できます。 •専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> •臨床研究に必要な図書室を整備しています。 •倫理委員会（適宜開催）と受託研究第2審査委員会（月1回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第1委員会（月1回）で審査しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均4～5題の学会発表をしています。
指導責任者	三田英治 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪医療センターは、大阪府2次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修からSubspecialty研修への橋渡しができると思います。3年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 33名 日本内科学会認定医 45名 日本内科学会総合内科専門医 24名

	<p>日本内科学会専門医（新制度）8名 日本循環器学会専門医10名 日本消化器病学会専門医9名 日本肝臓学会専門医7名 日本呼吸器学会専門医5名 日本腎臓病学会専門医3名 日本糖尿病学会専門医3名 日本内分泌学会専門医1名 日本血液学会専門医4名 日本神経学会専門医2名 日本アレルギー学会専門医1名 日本感染症学会専門医3名 日本消化器内視鏡学会専門医7名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医2名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 年間 240,023名（1ヶ月平均 20,002人） 新入院患者 年間 14,322名（1ヶ月平均 1,194人）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある12領域、69疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会専門医制度教育病院 日本神経学会準教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院</p>

	<p>日本感染症学会認定研修施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本超音波医学会専門医研修施設</p> <p>日本脳神経血管内治療学会研修施設</p>
--	---

14. 市立池田病院

<p>認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi環境があります。 ・池田市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります。 ・ハラスメント委員会が池田市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<p>日本内科学会指導医は23名在籍しています。（2024年4月現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023年度実績計6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的で開催（2022年度実績6回、2023年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域15領域のうち12領域（アレルギー、膠原病、感染症を除く）では定常的に、アレルギー、膠原病、感染症領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表（2021年度実績7演題、2022年度実績11演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>石田 永(1名)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立池田病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、GeneralityとSubspecialityとのどちらも追及できる可塑性があって、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>
<p>指導医数（常勤）</p>	<p>日本内科学会指導医23名、日本内科学会総合内科専門医19名、日本消化器病学会消化器専門医8名、日本肝臓学会肝臓専門医8名、日本循環器学会循環器専門医5名、日本内分泌学会内分泌専門医2名、日本糖尿病学会糖尿病専門医2名、日本腎臓学会腎臓専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医4名、日本血液学会血液専門医2名、日本神経</p>

	学会神経内科専門医3名ほか
外来・入院患者数(内科系)	外来延患者数 321人/日 新入院患者数365人/月 (2023年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある15領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	地域医療支援病院 厚生労働省臨床研修指定病院(医科) 大阪府がん診療拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院(3rdG:Ver.1.1) 卒後臨床研修評価機構(JCEP)認定病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定准教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養治療学会 NST(栄養サポートチーム)稼働施設 日本緩和医療学会認定研修施設

15. 大阪市立総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修指定病院(基幹型臨床研修病院)です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪市民病院機構職員(有期雇用職員)として労務環境が保障されています。 ・大阪市民病院機構としてメンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、医局・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
--------------------------------	--

<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 57 名在籍しています。 ・ともに総合内科専門医かつ指導医である、内科プログラム管理委員会(統括責任者：副院長)、プログラム管理者(診療部長)が各研修施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と事務局を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会(2022 年度実績 7 回)を定期的に行い専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC(2022 年度実績 6 回)を定期的に行い専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスである都島メディカルカンファレンス(年 2 回)、がんセンターボード(年 6 回)、学術講演会(年 1 回)、DMnet one 研究会(年 5 回)等を定期的に行い専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC(2020 年度開催実績 2 回：受講者 9 名、2021 年度開催実績 2 回：受講者 9 名、2022 年度開催実績 2 回：受講者 12 名)の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科専門研修管理委員会と事務局は日本専門医機構による施設実地調査に対応します。 ・特別連携施設(大阪市立弘済院附属病院)の専門研修では、電話・大阪市立総合医療センターでの面談(週 1 回)・カンファレンス等により指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70 疾患群のうち、ほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度実績 14 体、2020 年度実績 9 体、2021 年度実績 12 体)を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行い(2022 年度実績 11 回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に行い受託研究審査会を開催(2022 年度実績 12 回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多数の学会発表(2020 年度実績 96 演題)をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>成子 隆彦</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大阪市立総合医療センターは、大阪市の中心的な急性期病院であり大阪市医療圏・豊能医療圏にある連携施設・特別連携施設と連携し内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景や療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 57 名 (2022 年度) 日本内科学会総合内科専門医 42 名、日本消化器病学会専門医 11 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 8 名、 日本内分泌学会専門医 (内科) 7 名、日本腎臓病学会専門医 8 名、 日本糖尿病学会専門医 8 名、日本呼吸器学会専門医 8 名、 日本血液学会専門医 5 名、日本神経学会専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医 (内科) 4 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、 日本感染症学会専門医 4 名ほか (2020 年度)
外来・入院患者数	内科系外来患者合計 174,577 名 (年間) 内科系入院合計 7,767 名 (年間) 内科系のみ (2022 年度)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携等も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設等 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本てんかん学会てんかん専門医制度認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設栄養サポートチーム専門療法士 修練施設 日本感染症学会認定研修施設 等

16.大阪大学医学部附属病院

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> •初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 •非常勤医員として労務環境が保障されています。
---------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> •メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 •ハラスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 •病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •指導医は132名在籍しています。 •プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 •プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 •医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC（内科系）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •プログラムに登録している全ての専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
<p>認定基準【整備基準24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70疾患群のうち35以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。</p>
<p>認定基準【整備基準24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> •臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。 •大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	プログラム統括責任者 坂田泰史 副プログラム統括責任者 楽木宏実 研修委員会委員長 坂田泰史
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医132名 総合内科専門医 135名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医 日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科） 日本リウマチ学会専門医、日本老年病医学会専門医 JMECCディレクター 1名、JMECCインストラクター 10名
外来・入院患者数	2020年度 外来患者延べ数 204,294名（循環器内科 25,896名、腎臓内科 15,072名、消化器内科 41,581名、糖尿病・内分泌・代謝内科 41,009名、呼吸器内科 12,248名、免疫内科 19,858名、血液・腫瘍内科 17,307名、老年・高血圧内科 12,577名、神経内科・脳卒中科 18,746名） 2020年度 入院患者延べ数 89,703名（循環器内科 16,549名、腎臓内科 4,558名、消化器内科 15,552名、糖尿病・内分泌・代謝内科 8,089名、呼吸器内科 11,203名、免疫内科 5,669名、血液・腫瘍内科 13,679名、老年・高血圧内科 3,854名、神経内科・脳卒中科 10,550名）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある内科11領域、50疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICUと連携してICUのローテーション研修を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設

	日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年病医学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設
--	--

17.近畿中央呼吸器センター

認定基準 [整備基準 24] 1)専攻医 の環境	<ul style="list-style-type: none"> •初期臨床研修制度連携型研修指定病院です。 •研修に必要なインターネット環境（電子ジャーナル閲覧可）があります。 •非常勤医師として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医、管理課労務担当）があります。 •ハラスメント防止に関する規程が整備されており、相談窓口があります。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
認定基準 [整備基準 24] 2)専門研修 プログラム の環境	<p>指導医は 19 名在籍しています（下記）。</p> <ul style="list-style-type: none"> •内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的開催（2023 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の 環境	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 2 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</p>
認定基準	<ul style="list-style-type: none"> •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています

[整備基準 24] 4) 学術活動の環境	す。
指導責任者	滝本 宜之 【内科専攻医へのメッセージ】 近畿中央呼吸器センターは、全国でも屈指の呼吸器専門病院であり、基幹施設である国立病院機構大阪南医療センターと連携して内科専門研修を行い、胸部レントゲンやCTをみてしっかりと疾患の鑑別ができる内科専門医の育成を目指します。我々と一緒に学びませんか？熱意のある方、大歓迎です。
指導医数 (常勤)	日本内科学会指導医 19 名、 日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 24 名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 12 名、 日本感染症学会専門医 2 名
外来・入院患者数 (内科系)	外来患者 3,653.3 名 (平均延数/月) 入院患者 206.0 名 (平均数/月)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 2 領域、12 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育特殊病院 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会認定施設など

西宮市立中央病院内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

1. 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、

- ① 高い倫理観を持ち
- ② 最新の標準的医療を実践し
- ③ 安全な医療を心がけ
- ④ プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
- ④ 総合内科的視点を持ったSubspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

西宮市立中央病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養とGeneralなマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、阪神南医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はSubspecialty領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

西宮市立中央病院内科専門研修プログラム終了後には、西宮市立中央病院内科施設群専門研修施設群だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2. 専門研修の期間

図1. 西宮市立中央病院内科専門研修プログラム（概念図）

初期臨床研修 1年目 2年目	内科専門研修			Subspeciality研修 大学院進学 など
	専攻医1年次	専攻医2年次	専攻医3年次	
	基幹施設 (西宮市立中央病院)	連携施設	基幹施設 (西宮市立中央病院)	
	必須分野 ローテート	各病院の特色を 生かした研修	内科標準型 Subspeciality重点型	

基盤施設である西宮市立中央病院内科で、専門研修（専攻医）1年目に1年間の専門研修を行います。専門研修（専攻医）2年目の1年間、連携施設で研修をおこないます。3年目には西宮市立中央病院内科で専門研修をおこないます。研修達成度によって3年目にSubspeciality研修も可能です。

3. 研修施設群の各施設名

- 基幹施設：西宮市立中央病院
- 連携施設：兵庫県立西宮病院
- 連携施設：市立伊丹病院
- 連携施設：公立学校共済組合近畿中央病院
- 連携施設：市立吹田市民病院
- 連携施設：大阪府済生会千里病院
- 連携施設：日本生命病院
- 連携施設：箕面市立病院
- 連携施設：りんくう総合医療センター
- 連携施設：第二大阪警察病院
- 連携施設：大阪急性期・総合医療センター
- 連携施設：市立豊中病院
- 連携施設：大阪警察病院
- 連携施設：国立病院機構大阪医療センター
- 連携施設：市立池田病院
- 連携施設：大阪市立総合医療センター
- 連携施設：大阪大学医学部附属病院
- 連携施設：近畿中央呼吸器センター

4. プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

2024年度 西宮市立中央病院 内科専門研修プログラム管理委員会（2024年4月現在）
西宮市立中央病院

小川 弘之（委員長、プログラム統括責任者、副院長 消化器内科分野責任者）
平野 亨（プログラム管理者、リウマチ・膠原病・アレルギー、総合内科分野責任者）
日下部 祥人（呼吸器内科、感染症分野責任者）
野嶋 祐兵（循環器内科、救急分野責任者）
合屋 佳代子（糖尿病・内分泌内科分野責任者）
上垣 雅裕（事務局代表者）

連携施設担当委員

兵庫県立西宮病院 西山 浩彦
市立伊丹病院 村山 洋子
市立吹田市民病院 鉄本 訓史
公立学校共済組合近畿中央病院 上道 知之
大阪府済生会千里病院 増田 栄治
日本生命病院 橋本 久仁彦
箕面市立病院 森谷 真之
りんくう総合医療センター 烏野 隆浩
第二大阪警察病院 比嘉 慎二
大阪急性期・総合医療センター 林 晃正
市立豊中病院 小杉 智
大阪警察病院 飯島 英樹
国立病院機構大阪医療センター 三田 英治
市立池田病院 石田 永
大阪市立総合医療センター 成子 隆彦
大阪大学医学部附属病院 辻本 考平
近畿中央呼吸器センター 滝本 宜之

オブザーバー 内科専攻医代表 1名

2024年度 西宮市立中央病院 内科専門研修委員会（2024年4月現在）

【指導医師名】

池田 聡之 院長
小川 弘之 副院長、消化器内科主任部長
日下部 祥人 呼吸器内科部長
平野 亨 リウマチ・膠原病内科部長
野嶋 祐兵 循環器内科部長
合屋 佳世子 糖尿病・内分泌内科部長
足達 英悟 循環器内科部長
林 典子 消化器内科部長

濱野 美奈 消化器内科部長
 藤永 哲治 消化器内科部長
 二木 俊江 呼吸器内科部長
 田淵 優希子 糖尿病・内分泌内科医長
 高安 幸太郎 循環器内科医長
 貫野 真由 糖尿病・内分泌内科医長 指導医申請中
 小川 恭生 リウマチ・膠原病内科医長 指導医申請中

5. 各施設での研修内容と期間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	消化器			循環器		呼吸器			糖尿病・内分泌		リウマチ・膠原病	
	外来・内科救急											
2年次	連携施設での研修											
3年次	ローテート研修(内科標準型) または Subspeciality研修(Subspeciality重点型)											
	外来・内科救急											

【専攻医1年次】

- 1) 研修開始から12ヶ月間の研修期間中に内科全分野において、主担当医として最低20 疾患群、60 症例（可能であれば45疾患群、120症例）以上を経験し、専門医研修修了に必要な病歴要約を10例以上記載することを目標とします。
- 2) 研修方式は、基幹領域研修として2ヶ月または3ヶ月ずつ内科系5診療科にて研修を行います。

【専攻医2年次】

- 1) 連携施設において研修を行います。初年度の終わりまでに2年次の研修先を決定します。どの連携施設も豊富な入院症例数を持っているため、多数の症例と比較的稀な疾患の経験が可能となり、1年次に研修が十分でなかった領域を中心に研修をすることが可能です。また、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践し、より総合的な内科研修が可能となります。
- 2) 2年次12ヶ月間の研修期間中に内科全分野において、主担当医として最低合計45 疾患群、120 症例（可能であれば合計56疾患群、160症例）以上を経験し、専門医研修修了に必要な29症例の病歴要約を全て記載することを目標とします。

【専攻医3年次】

- 1) ローテート研修（内科重点型）またはSubspeciality研修（Subspeciality重点コース）を行います。研修期間中にSubspeciality領域以外の研修が不十分と判断した場合は、希望するSubspeciality領域の診療科に所属しながら、経験が不足する領域の診療科にも研修を並行して行う場合もあります。その他、Subspeciality領域以外の関連する科の研修を希望される場合は柔軟にローテーションを調整します。
- 2) 研修修了までに、修了認定に必要な56疾患群、160症例（可能であれば70疾患群、200症例以上）を登録することを目標とします。
- 3) 1年次に引き続き、内科系救急患者の初療ならびに診断、治療を担当します。

※ 各専攻医に合わせた柔軟なプログラム編成を検討し実施します。そのために経験が必要な症例が不足している領域に関してはローテーション研修または平行研修を追加することもあります。

※ 連携施設での研修時期は3年間のうち2年目の1年間を原則としますが、連携施設の受入れ状況、専攻医の希望ならびに研修進捗状況等と照し合わせながら、調整します。

6. 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

診療科別診療実績（2023年度）

	入院患者数（人/年）	外来患者数（人/年）
消化器内科	601	7744
循環器内科	157	2473
呼吸器内科	569	6927
糖尿病内科	186	5278
リウマチ・膠原病内科	108	2149
総合診療内科	300	1568

腎臓、血液、神経の入院症例は少なめですが、外来患者診療を含め、1学年4名に対しては十分な症例を経験可能です。

7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域のみに拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（基幹施設：西宮市立中央病院での一例）

専攻医1人あたりの受持ち患者数は、担当指導医、Subspecialty上級医の判断で10名前後を受持ちます。各科で担当した症例がローテーション期間を越えて入院される場合は、原則退院まで主担当医として診療にあたります。これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく、主担当医として診療します。

上記5. 各施設での研修内容と期間も参照ください。

8. 自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。評価終了後、1か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9. プログラム修了の基準

- 1) J-OSLERを用いて、以下i)～vi)の修了要件を満たすこと
 - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができる）を経験することを目標とする。その研修内容をJ-OSLERに登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができる）を経験し、登録する（P.78別表1「各年次到達目標」参照）。
 - ii) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されている（初期研修期間中の症例は14例まで）。
 - iii) 学会発表あるいは論文発表が筆頭者で2件以上ある。
 - iv) JMECC 受講歴が1回ある。
 - v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会の受講歴が年に2回以上ある。
 - vi) J-OSLERを用いてメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められる。
- 2) 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを西宮市立中央病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約1か月前に合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間（基幹施設2年間+連携施設1年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長することがあります。

10. 専門医申請にむけての手順

- 1) 必要な書類

- ① 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
- ② 履歴書
- ③ 西宮市立中央病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

2) 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の5月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

3) 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

1 1. プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従います。

1 2. プログラムの特色

- 1) 本プログラムは、近畿の大都市医療圏である兵庫県阪神南医療圏（西宮市、尼崎市、芦屋市）の中心的な急性期病院である西宮市立中央病院を基幹施設として、阪神医療圏、大阪府といったそれぞれ研修環境が異なる地域の連携施設において、地域の実情に合わせた実践的な医療を研修できます。研修期間は基幹施設2年間+連携施設1年間の3年間になります。西宮市立中央病院の入院症例数がやや少ない分野である血液・神経・腎臓分野においては、豊富な入院症例数を持つ兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院、公立学校共済組合近畿中央病院、市立吹田市民病院、大阪府済生会千里病院、日本生命病院、箕面市立病院、りんくう総合医療センター、第二大阪警察病院、大阪急性期・総合医療センター、市立豊中病院、大阪警察病院、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院、大阪市立総合医療センターといった連携施設で経験を積むことができます。高度医療を提供できるりんくう総合医療センター、大阪大学医学部附属病院が連携病院として参加しており、高度な急性期医療・より専門的な内科診療ならびに希少疾患を中心とした診療を経験できます。
- 2) 本プログラムでは、症例がある時点で経験するというだけでなく、主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て、主たる担当医として入院診療を行った後、地域への病診連携を利用した紹介までの診療を行うことが可能です。
- 3) 基幹施設である西宮市立中央病院は、兵庫県阪神南医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジェーズの経験はもちろん超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験を得ることができます。加えて地域の病診・病病連携の中核でもあり、高次機能病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

- 4) 基幹施設である西宮市立中央病院での1年間（専攻医1年次）および連携施設での1年間（原則専攻医2年次）の合計2年間で「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち少なくとも45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。専攻医2年次修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成します（P.78 別表1「各年次到達目標」参照）。
- 5) 専攻医1年次は、基幹施設である西宮市立中央病院において内科系5診療科（消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ・膠原病内科）を基本領域研修として約2ヶ月ずつ行います。
- 6) 専攻医2年次は、連携施設において研修を行います。初年度の終わりまでに2年次の研修先を決定します。どの連携施設も豊富な入院症例数を持っているため、多数の症例と比較的稀な疾患の経験が可能となり、1年次に研修が十分でなかった領域を中心に研修をすることが可能です。また、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践し、より総合的な内科研修が可能となります。
- 7) 専攻医3年次は、基幹施設である西宮市立中央病院において希望するSubspeciality領域の診療科の通年研修を行います。ただし1年次修了時に十分な基本領域の症例研修が行えそうにないと判断された場合には、希望するSubspeciality領域の診療科に所属しながら、経験が不足する領域の診療科での研修を並行して行う場合もあります。
- 8) 基幹施設である西宮市立中央病院での2年間と連携施設群での1年間の研修で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち少なくとも56疾患群、160症例以上を経験し（可能であれば70疾患群、200症例）、J-OSLERに登録します。

1 3. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医はJ-OSLERを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年8月と2月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、西宮市立中央病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

1 4. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

1 5. その他

本プログラム管理委員会は、websiteでの公表や説明会などを行い、専攻医を募集致します。翌年度のプログラムへの応募者は、西宮市立中央病院websiteの医師募集要項（西宮市立中央病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、本プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

問い合わせ先：

西宮市立中央病院 人事給与課

TEL：0798-64-1515 内線315

FAX：0798-67-4811

E-mail：vo_h_jinkyu@nishi.or.jp

<https://www.hospital-nishinomiya.jp>

西宮市立中央病院内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

1. 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 専攻医1人に対し、担当指導医（メンター）1人が西宮市立中央病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 担当指導医は、専攻医がwebにてJ-OSLERにその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行い、フィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- 担当指導医は、専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価や研修委員会からの報告などにより、研修の進捗状況を把握します。専攻医はSubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とSubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は、Subspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 担当指導医は、専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時までに合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2. 専門研修の期間

- 年次到達目標は、P.78別表1「各年次到達目標」に示すとおりです。
- 担当指導医は、研修委員会と協働して、3か月ごとにJ-OSLERにて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医によるJ-OSLERへの記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、研修委員会と協働して、2か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、研修委員会と協働して、6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、研修委員会と協働して、毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3. 症例の登録

- 担当指導医は、Subspecialty上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価を行います。
- J-OSLERでの専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリの内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- 主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医にJ-OSLERでの当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4. J-OSLER の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる360度評価および専攻医による逆評価などを、専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全29症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と研修委員会は、その進捗状況を把握して、年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- 担当指導医は、J-OSLERを用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5. 逆評価とJ-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医によるJ-OSLERを用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、西宮市立中央病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6. 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年8月と2月とに予定）で、J-OSLERを用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に西宮市立中央病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇

西宮市立中央病院及び各施設の給与規定によります。

8. 指導者研修（FD）の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLERを用います。

9. 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形式的に指導します。

10. 研修施設群内で何らかの問題が発生し施設、群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11. その他

特になし。

別表1. 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約提出数 ^{*5}
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1 ^{*2}	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1 ^{*2}	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1 ^{*2}	1		
	消化器	9	5以上 ^{**2}	5以上 ^{**1}		3 ^{**1}
	循環器	10	5以上 ^{*2}	5以上		3
	内分泌	4	2以上 ^{*2}	2以上		3 ^{**4}
	代謝	5	3以上 ^{*2}	3以上		
	腎臓	7	4以上 ^{*2}	4以上		2
	呼吸器	8	4以上 ^{*2}	4以上		3
	血液	3	2以上 ^{*2}	2以上		2
	神経	9	5以上 ^{*2}	5以上		2
	アレルギー	2	1以上 ^{*2}	1以上		1
	膠原病	2	1以上 ^{*2}	1以上		1
	感染症	4	2以上 ^{*2}	2以上		2
	救急	4	4 ^{*2}	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計 ^{*5}	70疾患群	56疾患群	45疾患群	20疾患群	29症例 ^{*3}	
症例数 ^{*5}	200以上	160以上	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」「肝臓」「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める（全て異なる疾患群での提出が必要）。

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

別表2. 内科専門研修 週間スケジュール (例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科 カンファレンス	入院患者診療	内科外来診療 (総合)	入院患者診療	入院患者診療	担当患者の病態に応じた診療、当直、オンコール、講習会・学会参加など	
	入院患者診療	検査各診療科 (Subspeciality)					
午後	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	内科外来診療 (Subspeciality)		
			各診療科 カンファレンス	検査診療科 (Subspeciality)			
			担当患者の病態に応じた診療、当直、オンコールなど				